

C1 母子関係発展に關する研究—母子が初めて集団に参加する時—
お茶の水女子大家政 〇小西百合子

目的 母子が初めて集団に参加する時、母子活動はどのように展開発展して行くのだろうか。この研究においては、関係理論に基づき家族関係の発展過程における母子活動として位置づけ「理論即実践」の立場から研究をすすめる。具体的には、乳幼児集団（お茶大乳幼児集団研究会）地域社会・家庭の關係（この三者は重なりあい交差発展していく）の日常生活の流れの中からいくつかの実践例をあげて分析・考察する。

方法 ①「関係理論（自己・人・物の関係存在）（5つのカテゴリー内在・内接・母在・外接・外在）（5つの役割—演者・補助自我・監督・観客・舞台）と基盤にして、3つの母子活動をとりあげそれぞれの活動の特色課題をとらえながら考察する。①乳幼児集団活動（母・子・リーダーで構成される）における母子活動—母グループ・子グループの分化活動・母・子・リーダーの合同活動をくみあわせて、母子関係の拡大発展をもたらす。②家庭生活場面での母子活動—家族の人達とともに母子の乳幼児集団での体験を生かしながら（今：こで新しく）活動を創造する。③地域社会での母子活動—今までの生活体験を生かし、近所の了組の母子と一緒に母子単位での楽しい発展的な母子活動を展開させる。

結果 ①乳幼児集団—リーダー、子、母の役割機能分化 母・子の関係体験 役割体験が成立し、母子活動が展開発展的な活動となる。②家庭—兄・母・妹・物の場在状況の成立、生き生きと楽しい自発的・創造的な活動が展開される。③地域社会—地域の人達との交差の中で、新しい活動を皆とともにつく、こいく活動が展開される。各母子間の関係変化・各母と母の関係変化・各子ども間の関係変化・役割変化がみられる。